

# 大崎タイムズ

## 医療ケア可能な施設を

大崎重症身障  
児者を守る会

### 伊藤市長に要望書

大崎重症心身障害児（者）を守る会（大友祥子会長）は六日、大崎市の伊藤康志市長に対し、重症身障児者への医療ケアに対応できる施設設置などを求める要望書を提出した。

要望内容は、①医療ケ

アに対応できる通園施設  
の増設・新設②医療ケア  
のある短期入所施設（シ  
ョートステイ）設置③市  
内または大崎地域の医療  
機関（小児神経科、整形  
外科、リハビリテーショ  
ン科、歯科）を受診可能  
にするための施策と、車

いすや装具などを製作で  
きるような企業誘致など  
の施策の三点。

同会によると、重症身  
障者が利用する第二あや  
め学園（同市古川小野）  
の通園事業B型はすでに  
定員五人を上回る六人が  
利用し、これ以上の入園  
は困難な状況。また、自  
立訓練に必要なシヨート  
ステイ施設や当該医療、  
リハビリテーションを受  
診できる医療機関が県北

部にはなく、現在は仙台  
市を利用している。特に  
医療機関は多い人で週二  
回、仙台市まで往復する  
必要があり、体力のない  
当事者はもとより、保護  
者にとっても大変な状況  
という。

この日は大友会長、県  
重症心身障害児（者）を  
守る会の秋元俊通会長、  
重症身障児者と保護者ら  
約十人が市役所を訪問。  
市が障害者自立支援法の

全面施行に対する激変緩  
和策を採用したことに関  
謝の意を伝え、たうえで、  
要望内容を説明。

伊藤市長は「他の事業  
と違い、財政難を理由に  
片付けてはいけけない問  
題。要望を早く受け止め、  
優先的に実現させるよう  
努力したい」と語り、さ  
らに詳しく説明を求めて  
いた。



要望書を読み上げる大友  
会長（右）

備を進めているという。